

子どもたちが「おいしい」って言うってくれる給食
 安心して食べられる給食
 あたりまえのことだけれど毎日の目標です

REPORTER'S EYE



【リポーター】
 遠藤和子さん(上広瀬在住)

リポーターズアイでは、行政のしくみや話題性のあることから、市内のいろいろな施設などを、市民の目がリポートします。



人気のメニューはカレーライスやハンバーグ、焼きそばなど。子どもたちにおいしく食べてもらいたいから一つ一つ心を込めて調理します。

子どもたちが安心して食べられる給食を
 育ち盛りの子どもたちにとって毎日の食事は重要です。今日はその中でも子どもたちの昼食である給食を作っている学校給食センターにお邪魔しました。狭山市の学校給食は、初めは各校で調理する自校方式でしたが、都市化による人口の急増で学校の給食室では対応しきれなくなり、昭和47年にセンター方式に変わりました。現在上広瀬と堀兼の2か所の給食センターで、小学校17校と中学校10校の児童・生徒約1万6千人の給食を作っています。

子どもたちが安心して食べられる給食を

給食は、栄養バランスのとれた食事を提供するだけでなく、よい食習慣を育てることも目的の一つです。給食センターでは月に2回学校訪問を行い、子どもたちの意見を聞き、栄養指導をしながら成長に必要

なもの、家庭で不足しがちな栄養を考慮して献立作りをしているそうです。狭山の郷土料理として、抹茶を使った蒸しパンや抹茶豆を考案したところ子どもにも好評だったそうです。給食を通して郷土で収穫される食べ物に関心と理解を深めることはとても大切なことだと思います。



「みんな給食好き？」
 「だーい好き。」「おいしいよ！」
 子どもたちの声に献立作りにも熱が入ります。



「『今日も給食おいしかったよ。』家でも娘と給食のことはよく話すんですよ。」と遠藤さん。
 第一学校給食センター
 (上広瀬187-1、☎54-2414)

「おいしいのはもちろんのこと、徹底した衛生管理に気を配り給食を作っています。何よりも子どもたちの健康と安全が第一、安心してたくさん食べてほしいですね。」とおっしゃる所長さんの言葉が印象的でした。

ここにも給食センターの配慮が感じられました。
 調理場を見ると一度に1千食の調理ができる直径約1mもある大きな釜や、スープや煮物を作る大きな釜がたくさんあって、学校の給食の時間に間に合うように大勢の調理員さんが忙しく働いています。設備も機械化されていますが、じゃがいもの芽などは一つずつ手で取るのだそうです。午後は学校から戻ってくる食缶や食器の洗浄にお湯を使うため、洗浄室の温度が夏には40℃にもなるそうです。また、夏休みなど給食がない時には、ポイラーや機械の点検や調整をし、調理員さんが食缶からスプーンまで一つひとつ手で磨いて休み明けの給食に備えています。
 「おいしいのはもちろんのこと、徹底した衛生管理に気を配り給食を作っています。何よりも子どもたちの健康と安全が第一、安心してたくさん食べてほしいですね。」とおっしゃる所長さんの言葉が印象的でした。



狭山に来て8年。関山さんは一生この地で暮らしていこうと思っているそうです。市民のオーケストラなどがあつたら演奏に参加させてもらいたいという話もあり、「これから地域に溶け込んで、何かのお役に立てたい」と思っています。とうれいお言葉もいただきました。

ヨーロッパでは公園で寝ころんで
 クラシックが聴けるんです
 素晴らしい環境ですよ



HITO

関山幸弘さん
 (NHK交響楽団
 首席トランペット奏者)

「音楽は小さいころから好きでした。小学生のころは音楽の成績が一番よかったですよ。」と、予想に反してとても気さくな話し方の関山さん。その肩書を見てしり込みしてしまいがちな取材陣に、気負わない雰囲気でお話の話をしてくださいます。関山さんがトランペットを始めたのは、中学校に入るときに、ブラスパンド部に入部したのがきっかけでした。演奏するならトランペットと決めていた関山さんは、当時は先輩たちの言う通りにパートが決定されていた中で、入学と同時に楽器を購入、「僕はトランペットをやりたいです。楽器も持っています。」と裏ワザを使ってパートを獲得したとか。その時から関山さんは自然とこの道に入ってきたそうです。「何の抵抗もなく、



関山さんが所属し、12月にはコンサートも開催したフィルハーモニア・ブラスクインテッド。(中央が関山さん)

特に難しく将来を考へることもなく、導かれるままにここまで来たという感じですね。」と笑います。そんな関山さんが最近考へているのは、「日本は音楽が教育となつてしまっている。もっと娯楽要素の高いものであつてよいのではないか。」ということだそうです。ヨーロッパでは、街中に音楽があり、市民がそれぞれのスタイルでそれを楽しんでいるのだそうです。だから、関山さんは常に押しつけがましい音楽でなく、聴いた人がよかつた、楽しかつた、と思ってくれるような演奏を心掛けています。「聴く人がもう少しクラシックに慣れれば、コンサートに行つたときも奥の深い、素晴らしい演奏を楽しめるようになると思いますよ。」とのことでした。1月16日にはNHKホールで定期演奏会があります。関山さんが魅了された音楽。そして何十回という演奏を重ねながら、今だに新たな発見があるというクラシック。皆さんも、その魅力を感じてみてください。

私の趣味

革工芸
 松村サエさん(北入曾在住)



革工芸に出会つたのは15年ほど前、近所のかたに誘つてもらい革工芸教室に行つたのがきっかけでした。それ以来、大きなバッグから小さな小銭入れまで、数えきれないくらいの作品を作ってきました。革工芸の楽しさは、裁断した革に色をつけるとき、また、洗って乾かしてまたときに予想もしていなかつた色合いに出会つたり、使いやすさを考えながら形を作るところにあります。そして50年近く使っているミシンで縫いあげること、一層愛着もわいてきます。私は、生きがい大学川越学園を2年前に卒業しましたが、そのときの仲間たちでボランティアとして老人ホームなどを訪問する機会があり、その際ホームのかたがたに印鑑入れやカード入れをさしあげて大変喜んでもらいました。こうして自分の作った作品が、多くの人に使ってもらえることが何よりの励みにもなり、人と人の輪が広がっていくことは大変素晴らしいことだと思います。
 これからも自分のペースで体に無理をせず、楽しみながら革工芸を続けていきたいと思っております。